

第十三週

七夕様

仙臺はわが國でも七夕祭りの最も盛に行はれる土地で聞く。こゝで生れた誘導保育の筆者が詳細に書かれてゐるので、談話としては、それ以上に何も記すことは無い。

實際に當つて考へて見ても、誘導保育は誘導保育、又その外に談話でいふわけでは無い、何れかに織り込まれて話されてこそ誘導保育なのであるから、前項を見て頂きたい。但し、支那の空想から出たまいはれる二つの星の詳しい話は、年少組には少し早いかと思はれる。

一言附け加へるなら、その日、かねて用意された竹が、お室に運ばれる、それに、昨日から、一昨日から作つておいたいろいろの物を結びつける。そして

「今日が七夕様ですよ、そして繪や字がお上手になりますやうに云つて、いろいろ書いておいたでせう、サア、空

のお星様迄届くように、こゝへ結びつけませうね」
云つて、先生が適宜に結びつける。

七夕様のこの行事は子供らしく神様にお願ひ、ごみをするまゝに結びつけたい。この頃の年齢にして宗教的情操を養ふ素地をつくるのに、よい機会かと思はれる。

七夕様を童話に作つたものがあるにはあるが、さうもこぢつけが多分に感じられて用ひたくない。こぢつけた童話になるまゝおかしなまゝにお星様が使はれるまゝもあるから、それよりもいつそ昔からの云ひ傳へそのまゝを話す方がいゝ。すべて行事を保育にもつてくる時は、そのもつ宗教味を存分に生かして行く方がいゝと思ふ。

三匹の小犬のはなし

時計を主題にしてゐるが、所謂こぢつけでは無く、童話らしく素直に書かれてゐるので、いゝ材料である。チックタックまゝいふ振子の發音は、はつきりまゝ弾力をつけていふ。三匹の小犬がびつくりする所をおもしろく。